

伊根漁港水産物供給基盤機能保全事業

基本計画

伊根地区

伊根漁港（第2種）

新井漁港（第2種）

本庄漁港（第2種）

浦島漁港（第2種）

泊漁港（第1種）

漁港管理者：京都府伊根町

水産物供給基盤機能保全事業基本計画 (保全工事の実施)

1. 地区名

伊根地区

2. 位置図等

都道府県名	京都府	漁港管理者名	伊根町	事業主体名	伊根町	所管名	本土
対象漁港名	伊根漁港(伊根町日出、平田、亀島) 新井漁港(伊根町字新井) 本庄漁港(伊根町字蒲入)						

位置図



3. 計画内容

計画期間	(平成23～令和4年度) '平成23～令和7年度	計画事業費	(681百万円) 1,098百万円
計画概要	<p>保全工事</p> <p>伊根、新井、本庄漁港は、昭和30年より本格的な整備が進められ現在に至るが、近年施設の老朽化とともに、施設の維持・更新等を必要とする施設が増加している。そのため、今後の施設管理に関してはライフサイクルコスト(LCC)の概念を前提に、計画的・合理的な施設の維持管理が求められる。</p> <p>こうした背景を踏まえ、各施設ごとの機能診断や維持管理対策等を取りまとめた機能保全計画書を作成した。今後、計画書に沿って必要な保全工事を行う。</p> <p>今回、伊根漁港の大浦第1岸壁について変状を確認したため、機能保全計画書に沿って保全工事を行う。</p>		
工事实施の対象施設	「4 対象漁港一覧」を参照		
工事实施の有効性	<p>本計画に記載している施設は、機能保全計画書において「老朽化が進み機能低下がみられる」と診断された施設であり、特に早急な修繕もしくは補修が必要な部位についてのみ工事を行うものである。</p> <p>また、現時点での必要最小限の事業費により実施するもので、対象施設の長寿命化と、コストの縮減を図ることを目的としており、今後の維持管理において有効である。</p>		
工事实施に向けた体制	<p>①事業主体等の財政状況及び負担能力 伊根町財政力指数 0.115 (令和2年度) 伊根町負担割合 1/3</p> <p>②産業振興・地域振興に関する地元漁港や住民の熱意・体制 京都府漁協伊根支所が地元水産業者及び漁業者との連絡調整を率先して行っている。</p> <p>③地方公共団体の支援体制 府補助金 1/6</p>		

4. 対象漁港一覧

(H21 港勢調査)

・伊根漁港 (漁港番号 30200400)

H30 港勢調査

漁港種類	2種	所管	本土	漁港所在地	伊根町字日出・平田・亀島	
地域指定	丹後天橋立大江山国定公園、過疎地域、半島振興対策実施地域、農村地域、工業導入地域、豪雪地帯、積雪特別地域、地域経済活性化対策推進地域、総合保養地域、特定農山村地域					
属地陸揚げ量(1,724 t)	属人陸揚 (1,693 t)		属地陸揚金額 (628 百万円)			
2,351 t	2,351 t		676 百万円			
登録漁船数 (182 隻)	利用漁船数 (223 隻)		利用遊漁船等 (32 隻)			
132 隻	137 隻		9 隻			
採択要件	陸揚金額 1 億円程度以上、登録・利用漁船数 50 隻程度以上					
主要な漁業種類	大型定置網、小型定置網、延縄、一本釣り、養殖					
主な魚種	いわし、あじ、さば、ぶり、たい、いか等					
地区の特徴	<p>本漁港は、丹後半島の北東部に位置した伊根湾にあり、天然の静穏な地形を利用して鎌倉時代から開けたとされる漁港である。また、伊根湾沿いに立ち並ぶ「舟屋」群は文化財としても知られ、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。</p> <p>沖合は好漁場に恵まれ大型定置網漁が営まれている他、沿岸では小型定置網や延縄漁、湾内にて養殖業などが盛んに行われおり、水産業は当地区の基幹産業となっている。</p>					
水産基盤の役割	<p>本漁港は、南向きを開けた天然の良港として地理的条件に恵まれており、昭和 38 年より本格的な整備が進められてきた。</p> <p>近年は広域漁港整備事業により 7 m 岸壁、船揚場、用地など整備され、本漁港を利用する漁船の安全性や利便性の向上が図られ、地域屈指の陸揚げ量を有している。</p> <p>また、町内唯一の漁船修理施設や製氷施設を保有しており、他漁港の漁船が利用する拠点漁港となっていることから、漁港機能を損なわないよう適切な維持管理が求められている。</p>					
漁港施設一覧						
種類	名称 ○：保全工事	規模 (延長等)	建設又は 取得の年	建設又は 取得の価格	診断 結果 令和 2 年	
防波堤	大浦東防波堤	50.0m(セルラーブロック式他)	昭和 55 年	76 百万円	—	
防波堤	大浦西防波堤	100.0m(鋼管杭打式)	昭和 55 年	23 百万円	—	

防波堤	平田防波堤	40.0m(直立消波ブロック式)	平成元年	73.5百万円	—
防波堤	鳥屋防波堤	40.0m(浮体式)	平成4年	115百万円	B
防波堤	大西防波堤	50.0m(混成式)	平成5年	133百万円	—
岸壁	黒内第二岸壁	57.1m(コンクリート式)	昭和56・57年	140百万円	—
岸壁	青島岸壁	53.2m(コンクリート式)	昭和39年	1.3百万円	—
岸壁 ○	○大浦第一岸壁	318.6m(コンクリート式)	昭和58・59年	121百万円	A
岸壁	黒内第三岸壁	72.0m(コンクリート式)	昭和56・57年	81百万円	—
岸壁	大浦第二岸壁	99.6m(コンクリート式)	昭和58・59年	154百万円	—
岸壁	大西岸壁	60.0m(コンクリート式)	平成6～8年	270.7百万円	—
岸壁	大西第一岸壁	70.0m(ケソン・コンクリート式)	平成9～17年	442.7百万円	—
岸壁	大西第二岸壁	80.0m(ケソン・コンクリート式)	平成12～17年	725.4百万円	—
物揚場	青島物揚場	499.0m(方塊ブロック式)	昭和30年	1.7百万円	—
物揚場	カルビ物揚場	144.0m(コンクリート式)	昭和55年	14百万円	—
物揚場	亀山第二物揚場	33.5m(石材式)	不明	不明	—
物揚場	立石物揚場	59.4m(石材式)	不明	不明	—
物揚場	網場ヶ崎物揚場	58.0m(方塊コンクリート式)	昭和40年	4百万円	—
物揚場	鳥屋物揚場	65.6m(石材コンクリート式)	昭和62年	1.9百万円	—
物揚場	役場裏物揚場	40.0m(方塊コンクリート式)	昭和27年	1.3百万円	—
物揚場	今谷物揚場	88.7m(方塊コンクリート式)	昭和30年	0.4百万円	—
物揚場	七面山西物揚場	120.0m	昭和62年	64百万円	—
物揚場	七面山東物揚場	80.0m	昭和62年	80.7百万円	—
護岸(係留)	七面山護岸	40.0m(コンクリート式)	昭和62年	42百万円	—
護岸(係留)	七面山東護岸	12.0m(コンクリート式)	昭和62年	12百万円	—
栈橋	役場裏栈橋	23.4m(杭・コンクリート式)	昭和53年	3.3百万円	—
船揚場	小坪船揚場	141.5m(コンクリート式)	平成3年	2.2百万円	—
船揚場	今谷船揚場	73.0m(コンクリート式)	昭和55年	3.2百万円	—
船揚場	黒内船揚場	70.0m(コンクリートブロック式)	平成20年	198百万円	—
道路	カルビ道路	503.6m(アスファルト)	昭和62年	34.3百万円	—
道路	大浦道路	154.0m(アスファルト)	平成2年	17.4百万円	—
道路	大西道路	191.0m(アスファルト)	平成18年	17百万円	—
道路護岸	道路護岸	324.2m(直立コンクリート式)	昭和47年	20.6百万円	—

護岸(用地)	青島第一護岸	76.8m(直立雑石式)	昭和 38 年	2 百万円	—
護岸(用地)	青島第二護岸	18.1m(直立コンクリート式)	昭和 45 年	0.9 百万円	
護岸(用地)	今谷護岸	27.0m(直立雑石式)	不明	不明	—
護岸(用地)	黒内護岸	20.6m(直立コンクリート式)	昭和 49 年	19 百万円	—
護岸(用地)	亀山第一護岸	67.0m(コンクリート式)	平成 4 年	不明	—
護岸(用地)	日出第二護岸	86.0m(方塊コンクリート式)	平成 4 年	不明	—
護岸(用地)	大西第一護岸	32.35m(水中コンクリート式)	平成 4 年	22 百万円	—
護岸(用地)	青島第三護岸	67.6m(コンクリート式)	平成 14 年	15 百万円	—
護岸(用地)	大浦護岸	27.5m(コンクリート式)	不明	不明	—
護岸(用地)	大西護岸	32.3m(ケソン・コンクリート式)	平成 12～ 17 年	岸壁(h)含有	—

・新井漁港（漁港番号 3020045）

漁港種類	2種	所管	本土	漁港所在地	伊根町字新井
地域指定	丹後天橋立大江山国定公園、過疎地域、半島振興対策実施地域、農村地域、工業導入地域、豪雪地帯、積雪特別地域、地域経済活性化対策推進地域、総合保養地域、特定農山村地域				
属地陸揚げ量	1,132 t	属人陸揚量	1,132 t	属地陸揚金額	112 百万円
登録漁船数	29 隻	利用漁船数	30 隻	利用遊漁船等	0 隻
主要な漁業種類	大型定置網、刺網、いか釣り				
主な魚種	ぶり、いわし、あじ、さば、いか等				
地区の特徴	本漁港は、丹後半島の北東部に位置し、定置網などの沿岸漁業を中心とした漁業依存度の高い地区である。建設年次不明の施設もあり、古くから漁業の盛んな地域だったことがうかがえる。新井集落も漁港直近に位置しており、水産業が当地区の基幹産業となっている。				
水産基盤の役割	本漁港は、近隣に好漁場をもつ地理的条件に恵まれており、昭和48年度から平成9年度にかけての漁港改修事業により本格的な整備が進められ、港内の静穏度が上がり岸壁も整備されたことから、町内屈指の伊根ぶりの水揚げを誇っている。 また、大型定置網については3ヶ統を有していることから、スムーズな漁業活動が行える漁業施設、機能適切な維持管理が必要となっている。				
漁港施設一覧					
種類	名称 ○:保全工事	規模(延長等)	建設又は 取得の年	建設又は取 得の価格	診断結 果(平成 25年3 月)
防波堤	新井防波堤 ○	229.1m(方塊ブロック式、ケーソン式) 重力式混成堤	平成9年	886.1 百万円	A
防波堤	南防波堤 ○	70.0m(ケーソン式、水中コンクリート式) 重力式混成堤	昭和63年	173.6 百万円	A
防波堤	中防波堤	14.5m(現場打ちコンクリート式)重力 式混成堤	不明	不明	A
護岸	新井第一護岸	31.4m(水中コンクリート)重力式護岸	平成元年	17.6 百万円	B
岸壁	松川岸壁	41.2m 方塊ブロック式岸壁	不明	不明	A
岸壁	新井岸壁	212.6m 直立消波護岸	平成7年	199.6 百万円	B
船揚場	松川船揚場	28.5m 斜路式(コンクリート直打)	不明	不明	D
船揚場	カマガマ船揚場	27.5m 斜路式(コンクリート直打)	不明	不明	D
船揚場	本浜船揚場	74.5m 斜路式(コンクリート直打)	不明	不明	D
道路	新井漁港線	160.3m アスファルト舗装	平成8年	17.1 百万円	B

・本庄漁港(漁港番号 3020050)

(平成26年度港勢)

漁港種類	第2種	所管	本土	漁港所在地	伊根町 字蒲入
地域指定	丹後天橋立大江山国定公園、過疎地域、半島振興対策実施地域、農村地域、工業導入地域、豪雪地帯、積雪特別地域、地域経済活性化対策推進地域、総合保養地域、特定農山村地域				
属地陸揚量 294.6トン	属人陸揚量 294.6トン		属地陸揚金額 680 百万円		
登録漁船数 52 隻	利用漁船数 54 隻		利用遊漁船等 3 隻		
採択要件	陸揚金額1億円程度以上、登録・利用漁船数 50 隻程度以上				
主要な漁業種類	大型定置網, 刺網, 延縄, イカ釣り, 採貝藻				
主な魚種	いわし類, あじ類, さば類, ぶり類, たい類, いか類				
地区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本漁港は丹後半島の最北部, 京都府与謝郡伊根町の蒲入地区に位置し, 地元漁船の陸揚げ拠点や避難拠点として利用されている。 ■ 産業立地に恵まれない蒲入地区では, 漁業が経済発展の基礎をなす重要産業であり, 水産会社自営による大型定置網, 個人による刺網, 延縄, イカ釣り, 採貝藻といった漁業種類が営まれている。 				
水産基盤の役割	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本漁港は, 蒲入地区の陸揚げ拠点として利用されているため, 古くから機能向上を図るための整備が進められてきた。 ■ これにより, 水産物の陸揚げや漁船の避難に必要な施設が整ってきたが, 過去に整備された施設の中には老朽化しているものもある。 ■ 本漁港は, 地区の拠点漁港としての機能及び水産物を消費地へ出荷する流通拠点としての役割を担っている。このため, 過去に整備された施設の機能が引き続き発揮されるように対策を講じる必要がある。 				

漁港施設一覧						
種類	名称	規模(延長等)		建設又は取得の年月日	建設又は取得の価格	診断結果
防波堤	第1防波堤 ○	160.2m	重力式 方塊ブロック	不明～ 昭和52年	1,048百万円	A
	第2防波堤 ○	99.8m	重力式 方塊ブロック	不明～ 昭和50年	131百万円	A
	第3防波堤 ○	79.8m	重力式 現場打	昭和29年 ～ 昭和55年	137百万円	A
	第6防波堤 ○	35.6m	重力式 現場打	不明～ 昭和39年	2百万円	A
	第8防波堤	112.3m	重力式 ケーソン	昭和59年 ～ 平成6年	1,166百万円	B
護岸	組合裏護岸	68.0m	重力式 現場打	昭和29年 ～ 昭和32年	7百万円	B
	蒲入第一護岸	32.0m	直立消波式	平成13年	33百万円	C
	蒲入第二護岸	173.9m	直立消波式	平成13年	158百万円	B
突堤	第1突堤	13.0m	重力式 単塊	昭和63年	5百万円	B
岸壁	真島第1岸壁 C.D.L.-3.5m	16.5m	重力式 現場打	昭和40年 ～ 昭和53年	8百万円	B
	真島第2岸壁 C.D.L.-4.0m	52.0m	重力式 現場打	昭和54年	30百万円	B
	本庄岸壁 ○ C.D.L.-3.0～-4.0m	149.6m	重力式 方塊ブロック	昭和44年 ～ 昭和46年	80百万円	A
	組合裏岸壁 C.D.L.-3.5m	67.0m	重力式 現場打	昭和55年	22百万円	B
	真島第3岸壁 ○ C.D.L.-4.0m	87.5m	重力式 現場打	昭和57年	57百万円	A
	蒲入岸壁 C.D.L.-3.0m	80.0m	直立消波式	平成13年	207百万円	B
物揚場	甲崎1号物揚場 ○ C.D.L.-3.0m	35.4m	重力式 方塊ブロック	不明～ 昭和39年	1百万円	A
	真島第1物揚場 C.D.L.-1.0m ～ -2.5m	98.0m	重力式 方塊ブロック	昭和32年 ～ 平成6年	60百万円	B
船揚場	アジャ船揚場	36.0m	斜路式 現場打	不明～ 昭和46年	1百万円	C
	中の浜船揚場	115.0m	斜路式	昭和32年	13百万円	B

			現場打	～ 平成元年		
	ハト船揚場	34.4m	斜路式	不明～ 平成3年	7百万円	C
泊地	真島泊地	3,500m ²	浚渫	平成13年	14百万円	A
		10,000m ₂	浚渫	昭和57年	20百万円	A
道路	カンピョウロ線	251.3m	アスファルト 舗装	平成12年	18百万円	D
	甲崎線 ○	50.0m	コンクリート 舗装	昭和46年	1百万円	A
	真島線 ○	80.0m	アスファルト 舗装	昭和57年	2百万円	A

・浦島漁港（漁港番号 3010180）

漁港種類	第1種	所管	本土	漁港所在地	京都府 伊根町
地域指定	丹後天橋立大江山国定公園、過疎地域、半島振興対策実施地区、農村地域、工業導入地域、豪雪地帯、積雪特別地域、地域経済活性化対策推進地区、総合保養地域、特定農山村地域				
属地陸揚量	4.8 トン	属人陸揚量	4.8 トン	属地陸揚金額	－
登録漁船数	20 隻	利用漁船数	20 隻	利用遊漁船等	－
主な漁業種類	その他のほえ縄、その他の漁業、採藻				
主な魚種	まだい、あまだい、その他の海藻類、たこ類				
地区の特徴	<p>当地域は京都府の北部丹後半島の北端に位置し、伊根町を貫流する2級河川筒川の河口に開けた漁港である。地形は背後に平坦な土地が開けており、集落農地として利用されている。前面は遠浅な砂浜で海水浴場として利用され、沖合は好漁場に恵まれている。</p> <p>当地域漁業は、大型定置網、延縄、一本釣り、水視漁業を中心に営まれ地域の基幹産業であるが、水産資源が減少してきており、漁業経営の向上に海業の推進が課題である。</p>				
水産基盤の役割	<p>当地区の漁業は、古くから定置網漁業が取り組まれており、地域の主幹産業として位置づけられ順調な経営がなされているが、水産基盤整備の遅れにより、他港での水揚げを余儀なくされている。水産基盤整備を行い、水揚げ港としての機能が十分発揮されれば、水産業の振興及び当地区の漁村の活性化、生活環境に与える影響は大である。</p>				
漁港施設一覧					
種類	名称	規模（延長等）	建設又は取得の年月日	建設又は取得の価格	
防波堤	1 浦島防波堤	L=104.0m	昭和 56 年	21 百万円	
	24 沖防波堤	L=30.0m	昭和 62 年	71 百万円	
	26 浦島北防波堤	L=117.5m	平成 10 年	360 百万円	
	32 浦島東防波堤	L=135.5m	平成 18 年	302 百万円	
導流堤	21 導流堤	L=86.4m	昭和 62 年	17 百万円	
護岸	3 岩原護岸	L=51.6m	昭和 47 年	6 百万円	
	4 浜荒護岸	L=167.3m	昭和 48 年	27 百万円	
	5 小川護岸	L=70.5m	昭和 40 年	2 百万円	
	6 端脇護岸	L=114.0m	昭和 48 年	18 百万円	
	27 第1アジア護岸	L=11.2m	平成 3 年	9 百万円	
	28 第2アジア護岸	L=40.0m	平成 3 年	21 百万円	
	40 浦島護岸	L=17.6m	平成 15 年	6 百万円	
突堤	13 平礁突堤 (浦島第1突堤)	L=18.3m	昭和 50 年	1 百万円	
	14 浜荒突堤 (浦島第2突堤)	L=49.7m	昭和 53 年	20 百万円	
	15 端脇突堤	L=49.7m	昭和 53 年	24 百万円	

	(浦島第3突堤)			
	18 浦島第4突堤	L=50.0m	昭和54年	24百万円
離岸堤	23 第1離岸堤	L=60.0m	昭和62年	28百万円
	25 第2離岸堤	L=52.39m	平成1年	25百万円
岸壁	16 平礁岸壁	L=19.5m	昭和53年	4百万円
	29 アジア岸壁	L=40.0m	平成3年	30百万円
	41 浦島岸壁	L=56.7m	平成15年	99百万円
物揚場	7 平礁物揚場 (平礁第1物揚場)	L=37.1m	昭和50年	3百万円
	19 平礁第2物揚場	L=9.7m	昭和53年	2百万円
船揚場	8 平礁船揚場	L=34.0m	昭和48年	9百万円
	42 浦島船揚場	L=43.0m	平成15年	60百万円
泊地	20 浦島泊地	A=6,740m ²	昭和62年	13百万円
	33 アジア泊地	A=18,900m ²	不明	不明
道路	30 アジア道路	L=44.5m	平成3年	4百万円
	44 鯛山道路	L=105.0m	平成16年	6百万円
漁具干場	17 平礁漁具干場	A=402.0m ²	平成5年	4百万円
漁具保管修理施設用地	22(名称不明)	A=269.0m ²	不明	不明
漁船漁具保全施設	31 アジア漁具干場	A=2422.0m ²	平成3年	25百万円
漁港管理施設用地	34(名称不明)	A=146.0m ²	不明	不明
漁船漁具保全施設	22 本庄浦漁船漁業用作業保管施設	A=246.67m ²	昭和58年	10百万円
水産倉庫	45 荷捌所	A=210.0m ²	平成16年	38百万円
製氷・冷凍冷蔵施設	35 倉庫兼事務所	A=100.0m ²	昭和63年	7百万円
	43 浦島漁港施設用地	L=115.1m	平成15年	25百万円

・泊漁港（漁港番号 3010180）

漁港種類	第1種	所管	本土	漁港所在地	京都府 伊根町
地域指定	丹後天橋立大江山国定公園、過疎地域、半島振興対策実施地区、農村地域、工業導入地域、豪雪地帯、積雪特別地域、地域経済活性化対策推進地区、総合保養地域、特定農山村地域				
属地陸揚量	15.9 トン	属人陸揚量	15.9 トン	属地陸揚金額	1 百万円
登録漁船数	29 隻	利用漁船数	29 隻	利用遊漁船等	1 隻
主な漁業種類	その他の刺網、その他の釣り、採藻、その他の漁業				
主な魚種	さざえ、たこ、いか、めばる等				
地区の特徴	本港は、丹後半島の北東部に位置し、漁業の歴史は古く、定置網等の普及で使用されなくなったが、江戸時代を通じて、いわし地びき網が盛んに行われていた歴史がある。 海岸線は、美しい砂浜で、夏期は海水浴場としてたくさんの人々で、賑わっている。				
水産基盤の役割	本漁港は、近隣に好漁場をもつ地理的条件に恵まれており、以前は大型定置網漁業もおこなわれていた。 現在では刺網、釣り、採貝藻、その他の漁業が行われ、水産業は地区にとって重要な位置を占めていることから、漁港施設の適切な維持管理が必要となっている。				
漁港施設一覧					
種類	名称	規模（延長等）	建設又は取得の年月日	建設又は取得の価格	
防波堤	1 沖防波堤	L=80.0m	昭和 60 年	60 百万円	
	2 泊防波堤	L=25.0m	不明	不明	
護岸	3 泊第 1 護岸	L=263.5m	昭和 55 年	15 百万円	
	4 泊第 2 護岸	L=38.0m	昭和 28 年	3 百万円	
	5 泊第 3 護岸	L=65.3m	昭和 54 年	15 百万円	
	14 泊第 4 護岸	L=73.0m	昭和 53 年	12 百万円	
	16 泊第 5 護岸	L=28.35m	昭和 56 年	3 百万円	
防砂堤	15 泊第 1 防砂堤	L= 50.0m	昭和 56 年	34 百万円	
物揚場	17 泊第 1 物揚場	L= 18.0m	昭和 59 年	5 百万円	
	18 泊第 2 物揚場	L=32.4m	昭和 60 年	2 百万円	
船揚場	9 泊第 4 船揚場	L= 23.0m	昭和 52 年	1 百万円	
	13 泊第 5 船揚場	L=55.8m	昭和 53 年	12 百万円	
	21 泊第 6 船揚場	L=50.0m	昭和 62 年	26 百万円	
泊地	10 泊地	A= 10,700m ²	不明	不明	
漁港施設用地	12 水産倉庫	A= 230m ²	昭和 30 年	不明	
	19 漁具干場	A= 292.0m ²	昭和 60 年	2 百万円	
	20 荷捌所用地	A= 188.0m ²	昭和 60 年	1 百万円	
水産倉庫	12 泊倉庫	A= 182.0m ²	昭和 30 年	不明	
道路	22 泊道路	L= 17.6m	平成 4 年	2 百万円	

5. 機能保全計画の概要

・伊根漁港(漁港番号 30200400)

種類	名称	事業実施理由	機能診断結果の概要	対策工法	対策時期
岸壁	大浦第一岸壁	調査の結果、上部工腐食が進行し、また本体（鋼矢板）も腐食しており対策が必要なため	上部：コンクリート塩化物試験結果でイオン濃度が基準を上回っていた。 本体（鋼矢板）：設計腐食代以上部分が20%あり、腐食進行抑制対策必要	上部：断面打替工法	平成 23 年度、平成 25 年度
岸壁	大浦第一岸壁	調査の結果、矢板式岸壁部においてタイロッド破断により考えられる岸壁の前傾が確認され、早急な対策が必要なため	<p><施設全体> 矢板式岸壁法線のはらみ出しが確認され、今後も変状が進行する可能性があり、早期の対策が必要。</p> <p><エプロン> 岸壁の前傾に伴うエプロンの沈下が確認された。</p> <p><鋼矢板> 1箇所開孔が確認された。</p>	<p>既設岸壁はタイロッドが破断していると考えられ、現状不安定な構造物であることから、以下の3案にて検討を行い、最もLCCが安価となる②重力式（L型ブロック）案を対策工法として採用する。</p> <p>① 自立鋼管矢板式 ② 重力式（L型ブロック） ③ 控え矢板式（グラウンドアンカー）</p>	<p>（設計） 令和 3 年度 （工事） 令和 4～7 年度</p>

種類	名称	対策コスト	コスト縮減効果	日常管理の内容	日常管理の実績
岸壁	大浦第一岸壁	99,080 千円	487,500 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	目視により、上部工の劣化が認められた
岸壁	大浦第一岸壁	417,000 千円	348,000 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	目視により、上部工の劣化等が認められた

・新井漁港（漁港番号 3020045）

種類	名称	事業実施理由	機能診断結果の概要	対策工法	対策時期
防波堤	新井防波堤	調査の結果、上部工に劣化・損傷等の被害が確認され、早急な対策が必要のため	<上部工> 全範囲でクラック・ひび割れが確認され、特に 11B L には上部工を貫通するクラックがあり。また 12B L はパラペットと背面水たたきコンクリートが破断しており、早急な対策が必要	①パラペット部の樹脂アンカー補強案 ②上部工の鉄筋コンクリート更新案 ③鋼板補強案 を比較し、①を採用	(テスト) 平成 25 年度 (工事) 平成 27 年度
防波堤	南防波堤	調査の結果、本体工の一部に損傷が確認され、早急な対策が必要のため	<本体工> 1ブロック及び2ブロックの本体工の空洞は、放置した場合波浪時に防波堤が損壊する恐れがあり、早急な対策が必要	①消波ブロック補強案 ②鋼板型枠による水中コンクリート補強案 ③既設取壊し、ケーソン設置案 を比較し、③を採用	(テスト) 平成 24 年度 (工事) 平成 26 年度

種類	名称	更新コスト	対策コスト	コスト縮減効果	日常管理の概要	日常管理の実績
防波堤	新井防波堤	188,100 千円	10,300 千円	177,800 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた
防波堤	南防波堤	79,700 千円	72,100 千円	7,600 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	—

なお、中防波堤については全体的に老朽化が激しいため、また松川岸壁は上部工の一部が老朽化が激しいため、診断は両施設 A 判定であるが、中防波堤については新井防波堤の効果により機能不要となっており、また松川護岸も機能に影響する変状はないため、現時点で対策は実施しないこととする。

		<消波工> ブロックの散乱及び沈下が確認され、大きく欠損したものもみられる。			
岸壁	本庄岸壁	調査の結果、エプロン舗装に劣化・損傷等の被害が確認され、早急な対策が必要なため	<エプロン> 15～16BLについて、摩耗劣化が激しく、対策が必要	検討結果により現工法で更新する。	(テスト) 平成 25 年度 (工事) 平成 31 年度
岸壁	真島第 3 岸壁	調査の結果、エプロン舗装に劣化・損傷等の被害が確認され、早急な対策が必要なため	<エプロン> 1BLについて、沈下による陥没とそれによるクラックが発生し、対策が必要	検討結果により現工法で更新する。	(テスト) 平成 25 年度 (工事) 平成 27 年度

名称	更新コスト	対策コスト	コスト縮減効果	日常管理の概要	日常管理の実績
第 1 防波堤	298,318 千円	184,689 千円	113,629 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた
第 2 防波堤	102,466 千円	102,466 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた
第 3 防波堤	108,348 千円	108,348 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた
第 6 防波堤	5,454 千円	5,454 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた

本庄岸壁	1,448 千円	1,448 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、エプロンの劣化・破損が認められた
真島第3岸壁	18,266 千円	18,266 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、エプロンの劣化・破損が認められた
甲崎1号物揚場	1,818 千円	1,818 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、上部工の劣化・破損が認められた
甲崎線	8,200 千円	2,400 千円	5,800 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、舗装の劣化・破損が認められた
真島線	6,000 千円	6,000 千円	—	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、舗装の劣化・破損が認められた
真島泊地	300 千円	180 千円	120 千円	不定期巡回により陸上からの目視で変状の有無を確認、把握を行う	陸上からの目視により変状を確認した結果、砂の堆積が認められた

6. 漁港施設の管理状況

漁港管理者：伊根町

日常の管理は漁港管理者が巡回を行い、施設全体の移動や沈下、コンクリートの劣化・損傷など、陸上から目視できる範囲での変状有無、程度を確認することにより日々の管理を行っている。また定期点検として年2回程度、所定の簡易調査シートによる点検を行う。

定期点検にて施設の機能に関わる変状が認められた場合は詳細点検を行うこととしており、また台風通過後や地震(震度5以上)発生後には臨時点検を行うこととしている。

災害基準に乗らない施設の破損等や、経年劣化等による施設の機能低下には、町単独費用にて維持補修対応してきた。

7. 計画平面図

別添のとおり

8. 写真

別添のとおり(省略)

機能保全計画を策定した漁港施設

機能保全計画を策定した施設は、下記の漁港平面図で着色（赤色）した施設である。
ただし、用地、上屋など機能保全事業の対象とならない施設は除く。

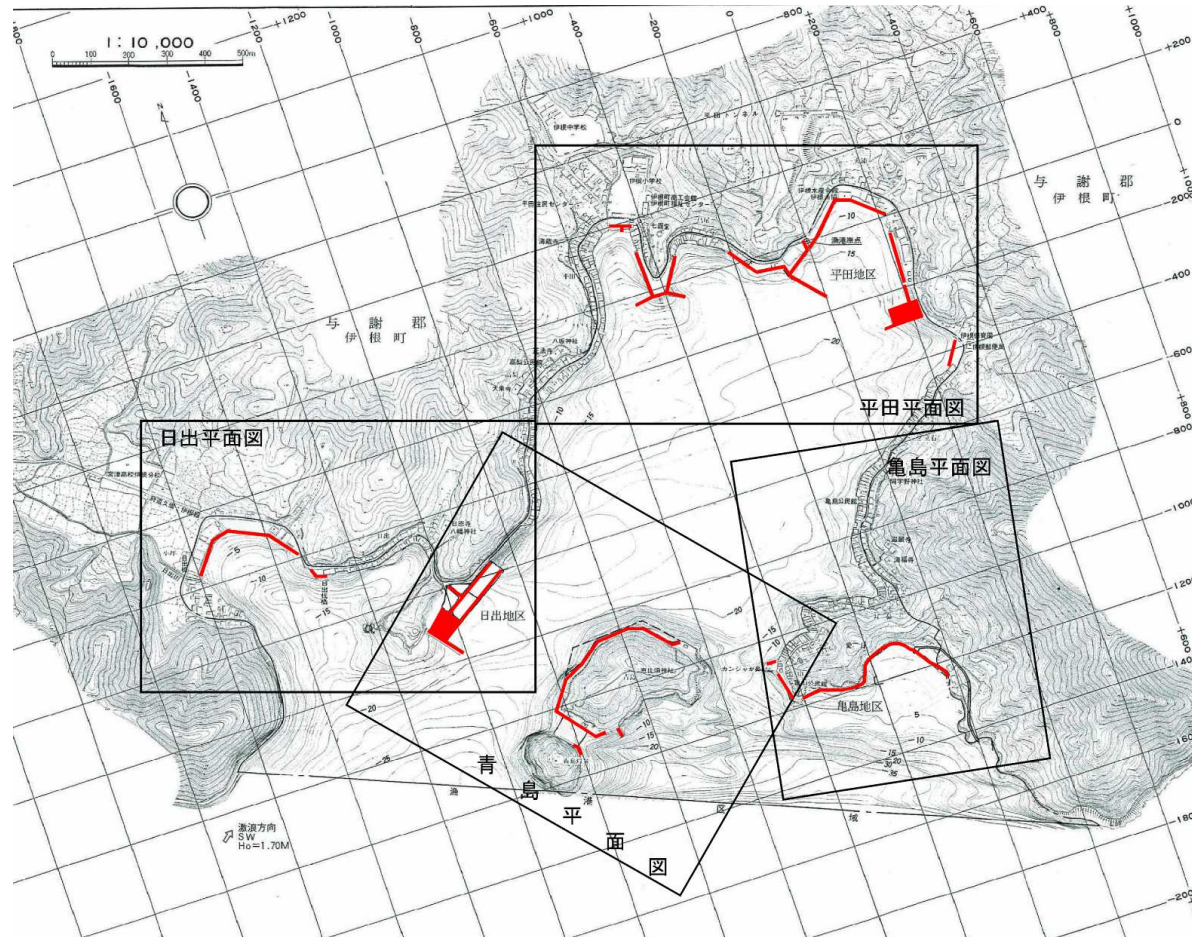


図-1 伊根漁港全体平面図

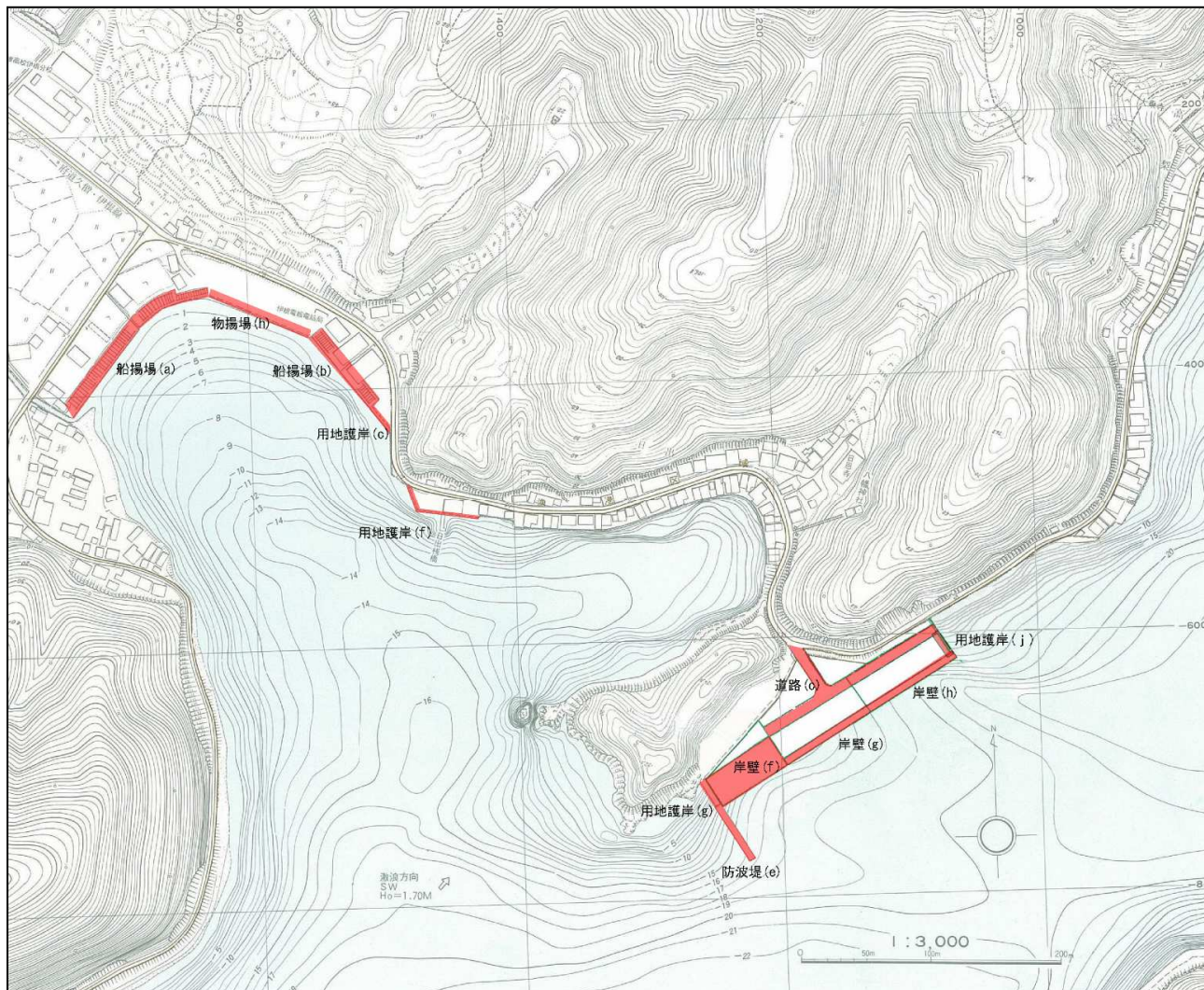


图-2 日出平面图

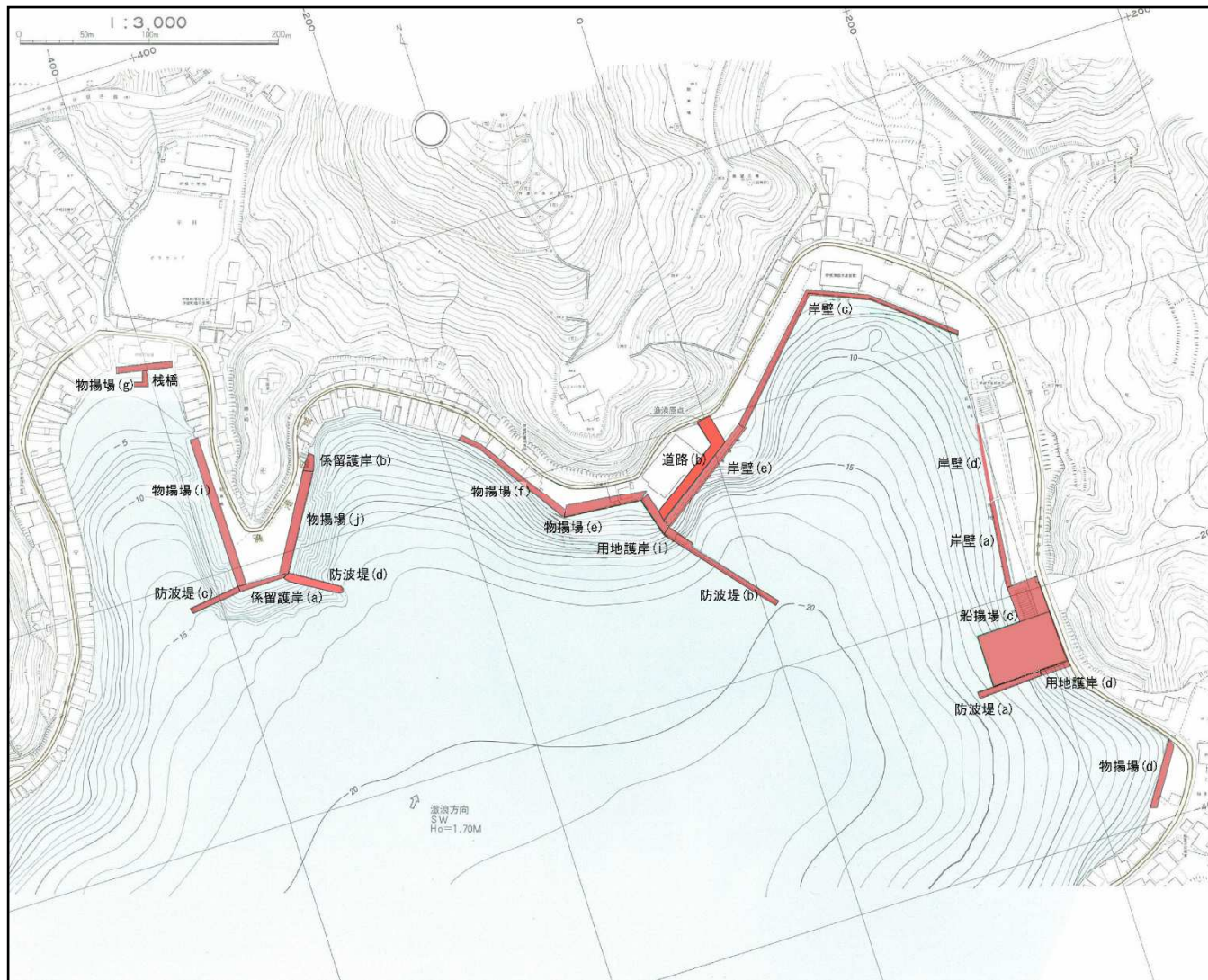


图-3 平田平面图

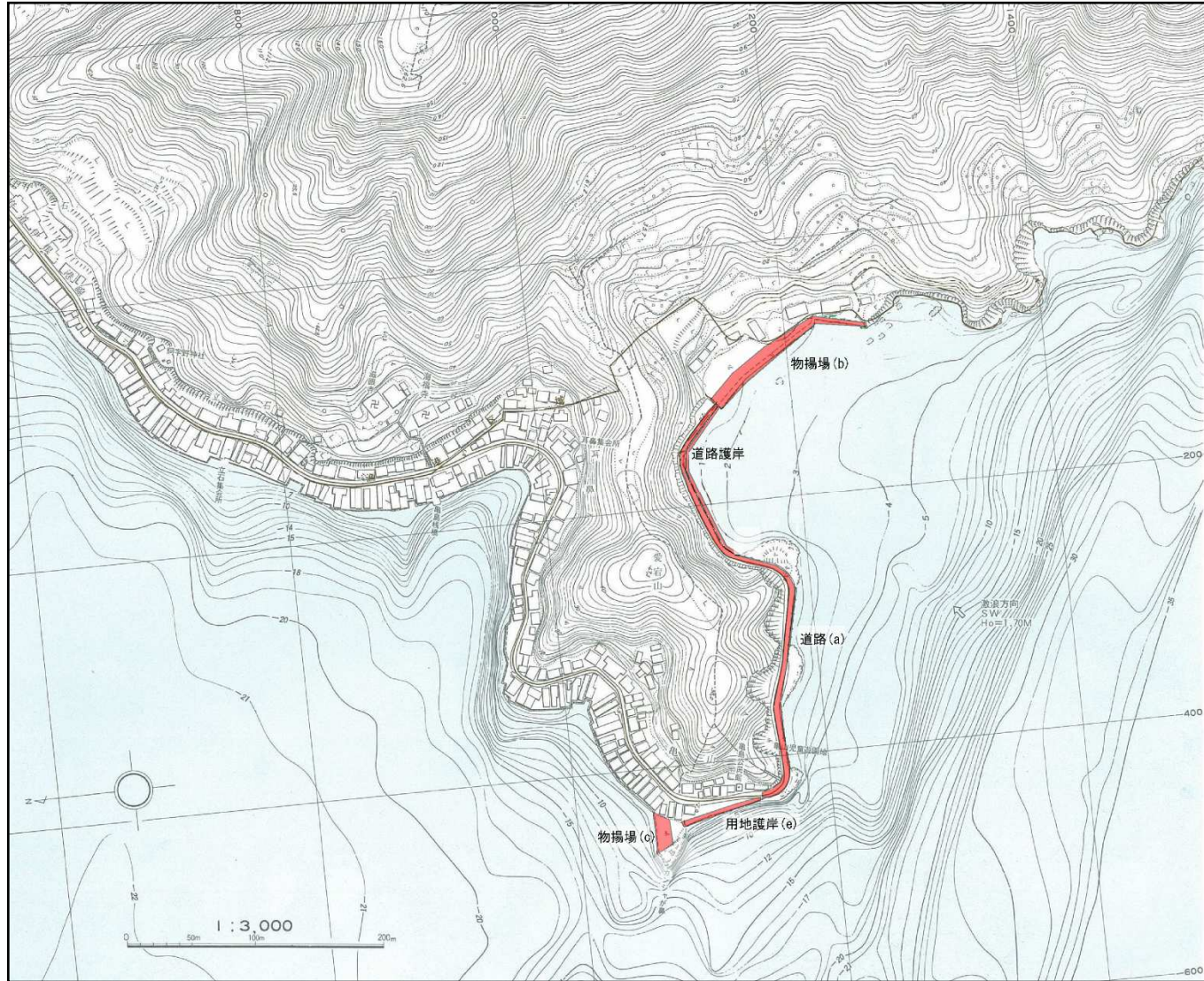


图-4 亀島平面図

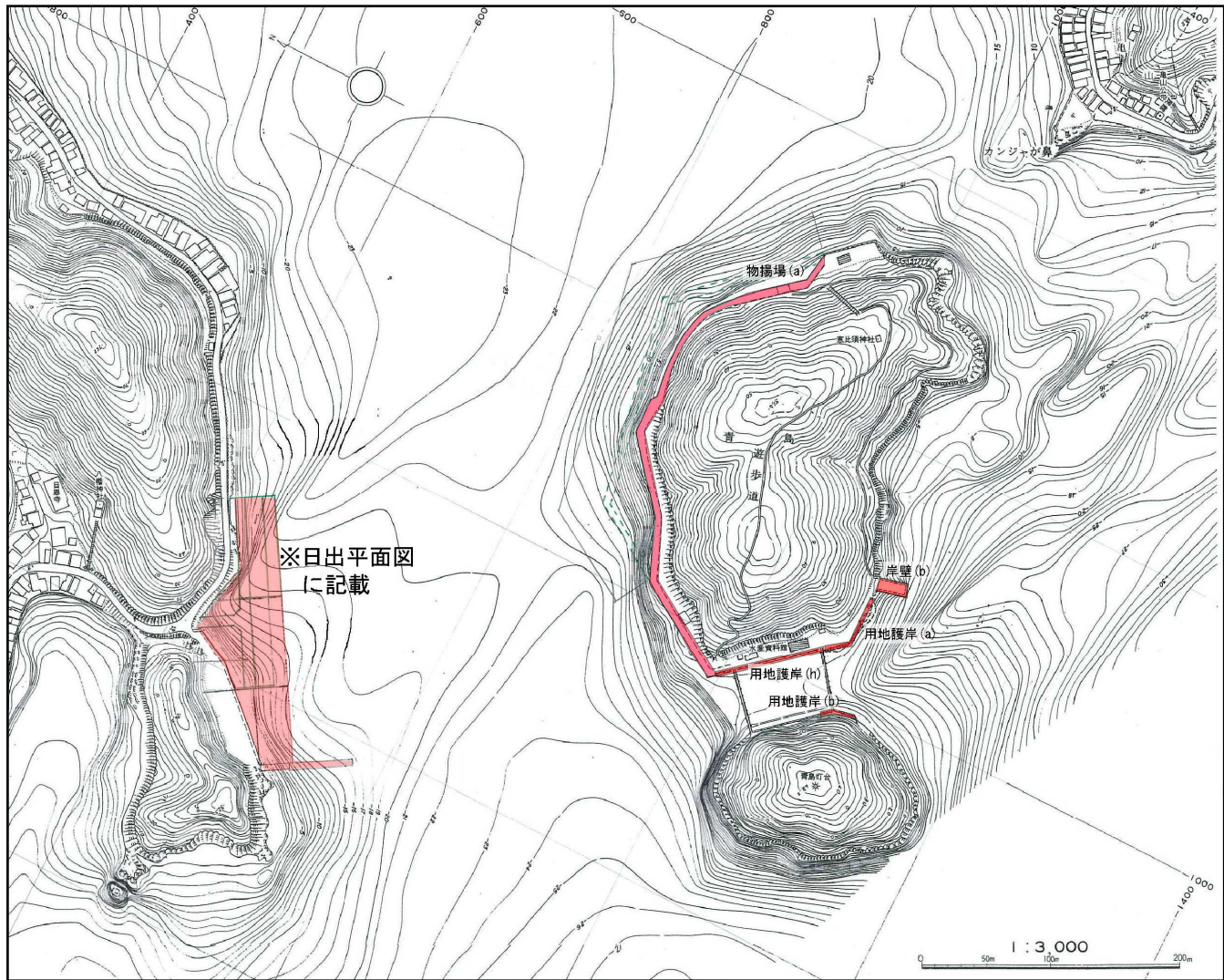


図-5 青島平面図

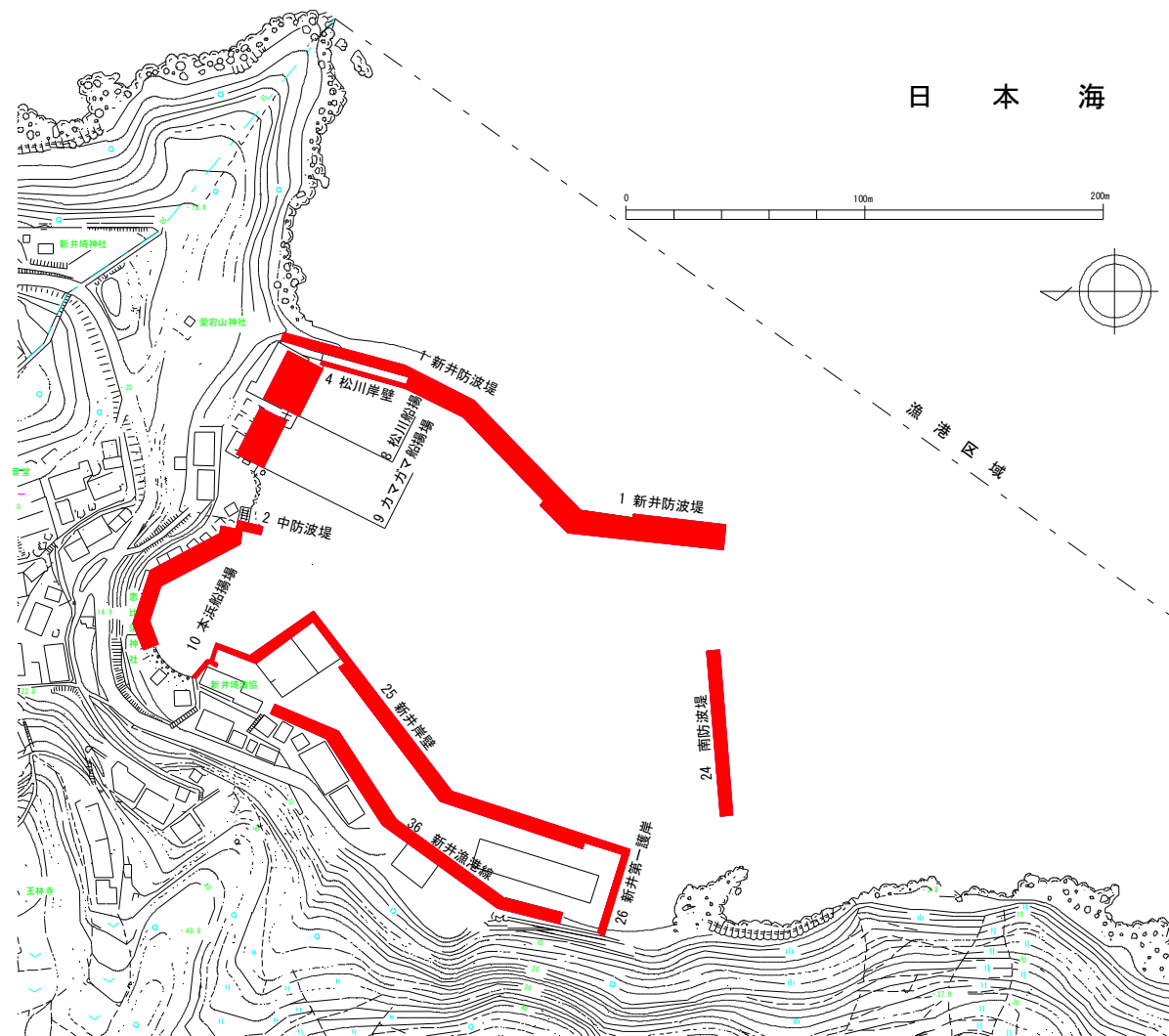


图-6 新井漁港全体平面図

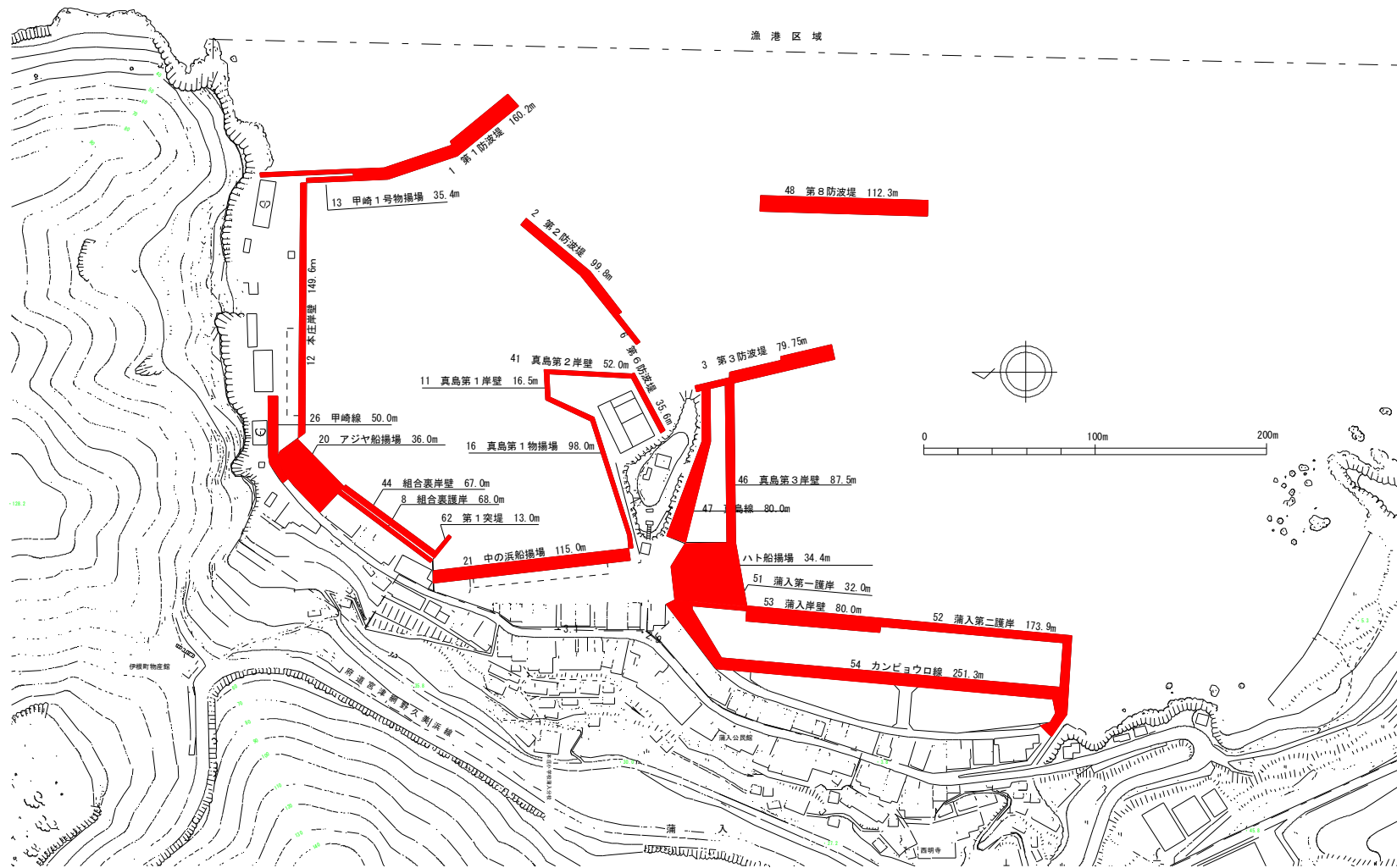


図-7 本庄漁港全体平面図

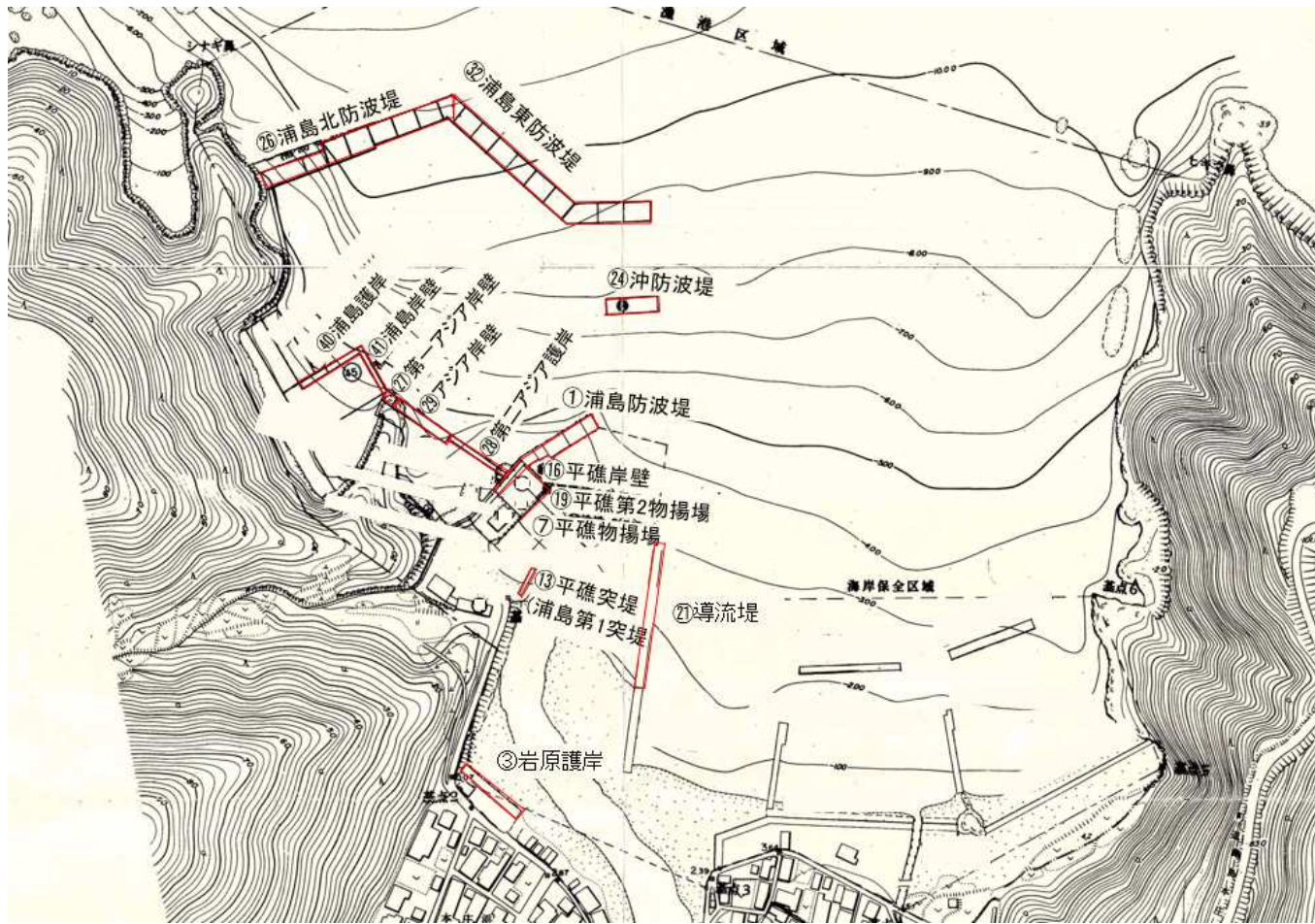


图-8 浦島漁港平面图



图-8 泊漁港平面图